総務省「平成28年度ふるさとづくり大賞」

只見町が地方自治体表彰・総務大臣賞を受賞

2月4日、総務省が主催する「平成28年度ふるさとづくり大賞」の表彰式が都市センターホテル（東京都千代田区平河町）で行われ、只見町が「地方自治体表彰・総務大臣賞」に選ばれ、菅家町長など町関係者が出席しました。

本表彰は、活力ある地域社会づくりに尽力している全国の団体、個人を称えるもので、昭和58年から実施されております。今回只見町が受賞したポイントは下記のとおりで、地域を誇りに思う長年の住民活動が評価されました。

表彰式では、菅家町長が冨樫博之総務大臣政務官より表彰状を受けとり、「今回の受賞は大変名誉なことで、今後も積極的なまちづくりを進めていきたい」と、抱負を語りました。

▲福島県内から選ばれた只見町・菅家町長（左）と、「団体表彰」を受賞した檜枝岐歌舞伎・千葉之家花駒座の星座長（右）

「只見町の受賞内容」

◆表彰

地方自治体表彰・総務大臣賞

◆まちづくりの概要

只見町は国内有数の豪雪地帯であり、過疎や少子高齢化の問題に直面している。しかし、学術調査においてブナ林など豊かな自然が世界遺産級の価値であることが分かり、「自然首都・只見」宣言を掲げて地域振興を進め、平成26年には「只見ユネスコエコパーク」に登録されるなど継続した町づくりを進めてきた。

◆評価された点

ブナを大切にする長年の活動と、人と自然が共生するモデルとして世界に認められたことなどが評価された。

只見町が研究のフィールド

国立歴史民俗博物館の共同研究会が開催

国立歴史民俗博物館（千葉県佐倉市）が主催する研究会が2月4～5日、只見町を会場に開かれました。「地域における歴史文化研究拠点の構築」というテーマのもと全国から博物館関係者など14名が参加しました。

この研究は、日本の地域社会の変動や東日本大震災などの災害により歴史文化の継承が途絶えることを危惧し、次世代へ歴史と文化を継承していくためのシステム構築を目的としています。只見町は、新潟・福島豪雨災害後にユネスコエコパークに登録された経緯や「人と自然との共生」を掲げるまちづくり、そして豊富な民具や文化財の調査・保存・活用などが研究テーマと合致することから調査対象地に選ばれたものです。

研究会当日は、ただみブナと川のミュージアムとふるさと館田子倉を巡り、旧朝日公民館に収蔵されている民具の見学が行われました。翌日は、講演会や意見交換会が行われ、参加者から活発な質問が飛び交いました。今年6月25日には「公開シンポジウム」を湯ら里で開催することを計画しています。

▲2月5日に季の郷湯ら里で行われた講演会及び意見交換会

只見町文化財調査委員
新国　勇氏
「只見町の地域文化」

只見町総合政策課
中野　陽介氏
「ユネスコエコパークと町の取組み」

只見町教育委員会
渡部　賢史氏
「町の社会教育施設の現状」

東洋大学非常勤講師
久野　俊彦氏
「中世書物の郷只見」

戊辰150周年に向け
町内で実行委員会を設立

平成30年の戊辰150周年に向けて只見町では2月3日、町内の歴史文化団体・観光団体などと「奥会津只見戊辰150周年記念事業実行委員会」を設立しました。只見町における戊辰の象徴的人物「河井継之助」を中心に、歴史的意義を再確認し観光客の誘致や歴史文化の振興につなげます。

平成29年度はプレ事業として、案内標柱・ガイドブックなどを作成し啓発活動を中心に行い、本番の平成30年度は講演会・シンポジウムなどを計画しています。

役場で行った実行委員会は11名が出席し、会長に会津只見史談会の飯塚恒夫会長が就任され、来年度からの計画を確認されました。

▲会津只見史談会、河井継之助記念館運営委員会、会津ただみ振興公社、町観光まちづくり協会、町観光商工課、町教育委員会により設立された実行委員会

海洋教育の取組み
只見小学校が東京大学で発表

先月締結した只見町と東京大学の海洋教育に関する協定(広報ただみ2月号No.561参照)を受け、2月5日に東京大学で開かれた「第4回全国海洋教育サミット」に、齋藤教育長と只見小学校5年生代表の鈴木詠大さん、鈴木莉子さんが参加しました。

サミットでは、齋藤教育長が町の海洋教育の取組みについてシンポジウムで発表し、ポスターセッションでは、只見小学校代表者2名が「海はブナの友達」というテーマで、他の発表者には無い山間部ならではの視点で発表し、来場者の注目を集めました。

児童の素晴らしい発表から、今後の取組への期待が膨らみます。

▲ユネスコエコパークに登録された只見の自然について発表した只見小の鈴木詠大さん(左)と鈴木莉子さん(右)

郵便局の地域ネットワークを活用
郵便局と只見町が協定を結ぶ

郵便局の地域ネットワークを町の防災や見守り活動に活かす為、只見町と町内3郵便局及び会津若松郵便局との間で協定を結ぶ締結式が2月24日、町役場で行われ関係者9名が出席しました。

この協定は、局員が配達や営業の際に異変を察知した場合、町へ連絡することとしており、災害発生時の対応、平常時における高齢者等への見守り活動、道路損傷や不法投棄発見時の対応に関することなどが盛り込まれています。既に町関係各課と郵便局で各々締結していたものを、今回改めて一本化したものです。協定式で菅家町長は「手が届きにくい部分の連携を深めていきたい」と述べました。

▲締結した菅家町長(中左)と町内郵便局代表の渡部仁一只見郵便局長(中右)と愛川雄一郎会津若松郵便局総務部長(左)と吉津文裕朝日郵便局長(右)

明和公民館まつり30回記念
「役重真喜子(やくしげまきこ)」講演会を開催

2月19日、今年で明和公民館まつりの開催30回目を記念した講演会が明和振興センターを会場に開かれ、約50名が参加しました。

開催にあたり、馬場幸人明和公民館まつり実行委員長から挨拶が述べられ、その後役重真喜子さんを講師に迎え、「ヨメより先に牛(ぐ)がきた」をテーマに講演会が行われました。役重さんは、東大法学部を卒業後、農水省に入省したキャリアでしたが、研修で訪れた田舎町(岩手県東和町)に魅せられて移住されました。その際の移住する側や受入れる側、地域のルールや地域に馴染むまでの苦労など様々な視点で話され、町づくりのポイントなど伝えられました。

▲記念講演会で移住について様々な角度から話をされた花巻市コミュニティアドバイザーの役重さん